

# 女性技術者による 建築計画

<平成28年度新規研修>



男性中心で、女性の活用が遅れていると言われる建設業界。しかし昨今は、五年以内に女性技術者・技能者を倍増する計画がスタートするなど、「もっと女性が活躍できる建設業界」の確立に向け官民挙げた取り組みが進んでいる。こうした動きに沿うように、平成二八年度の新規研修『女性技術者による建

築計画』は女性のみを受講対象とする初の研修で、講師陣も女性中心に構成され、地方自治体や建設会社等から二四名が参加して七月十三日～十五日の三日間で実施した。

## 実務に即した講義と現地研修

講義はカリキュラム〈表〉が示すとおり、建築計画に係る意匠、構造、設備と施工図からなり、それぞれ計画・設計する上で必要となる実務的な知識や技術を学ぶ内容となっている。紙面の都合で具体的な中身は割愛するが、「事例や経験談なども交えた説明で分かりやすかった」との評価が各講義とも多く、「意匠設計」の講義では「女性の目線に立った設計を学ぶことができた」という声も聞かれた。

現地研修では、東京都国分寺市に竣工間近の都立多摩図書館を訪れた。同図書館の設計コンセプトは「森の中の本の森」。緑豊かな周囲環境と調和した場所づくりと、図書館の施設特性を考慮し、環境や安全に配慮した様々な設備を整えているのが特徴である。

現地では設計方針や運営等について、都の担当職員と設計担当者から説明を受けるとともに、実際にアプローチ広場、エントランスホール、開架閲覧室

セミナールーム、屋上などを見学した。受講者からは「壁や床、棚など一つ一つに図書館に合った工夫やこだわりがあった」「面白かった」「メイン部分からバックヤードまで見学できて貴重な経験だった」「課題演習のテーマに沿った現地研修でとても参考になった」といった感想が寄せられた。

## 企画設計図を作成・発表した課題演習

課題演習のテーマは、秋田市南部の雄物川河口に近い地区に「図書館分館



都立多摩図書館での現地研修

平成28年度研修「女性技術者による建築計画」時間割

月日	時間	教科目	講師
7/13 (水)	8:45~9:00	受付	
	9:00~9:30	開講式・オリエンテーション	
	9:30~11:30	意匠設計	株式会社 松田平田設計 総合設計室 建築設計部 主管 松田 知子
	12:30~14:00	建築構造	株式会社 山下設計 技術設計部門 構造設計部 部長 塩手 博道
	14:10~15:40	電気設備	株式会社 三菱地所設計 関西支店 設備設計担当 課長代理 宇多 聡子
	15:50~17:20	機械設備	株式会社 三菱地所設計 設備設計二部 副主事 稲葉 さとみ
7/14 (木)	17:20~18:20	課題討議	
7/14 (木)	9:00~10:30	施工図	三井住友建設株式会社 東京建築支店 見積部 原価企画グループ 佐藤 美紀
	10:40~12:40	課題演習	
	13:30~17:00	現地研修	都立多摩図書館
	17:00~19:00	課題討議	
7/15 (金)	9:00~12:30	課題演習	
	13:30~15:30	課題発表	株式会社 松田平田設計 総合設計室 建築設計部 主管 松田 知子
	15:30~15:45	閉講式	

を持つ市民交流型施設」を整備するにあたり、施設のコンセプト、施設内容等を地域住民に説明するための企画設計図を作成するというもの。受講者は六班に分かれ、期待される効果、敷地の環境や規模・構造等の与条件に基づきプランニングを重ね、研修最終日にその成果を発表した。

各班の施設名やコンセプトの概略を紹介すると、一班は、建物の中心に広場を設け、多目的なだんだんテラスからアプローチできるようにし、図書館という閉鎖的な建物をだんだんと開放的な建物にというコンセプトで「DAN Dan」とネーミング。

二班は「YURAKU」。大人の「湯楽」、子供の「愉楽」を表したネーミング

グで、すべての年代が訪れなくなりコミュニケーションをとる装置として、足湯スペースを設けた。

三班の施設名は秋田の伝統工芸である「わっぱ」。学習と地域交流のできる施設となるよう、キーワードは「輪」「和」「童」（わっぱ）の三つの「わ」とし、外観にはわっぱをモチーフにしたルーバーを取り付けた。

四班は、米どころ秋田にちなんでRICEとLIBRARYを合わせた造語「RICE RARY」。米備蓄倉庫に隣接するため、お米を主体とした秋田の風土や歴史を伝える図書館を構想し、施設も米粒の形をしたユニークなデザイン。



プランニングを終え、企画設計図の作成へ

雄物川が流れる立地を考慮して、地域の流れをつくる施設をコンセプトに「ながれかん」とネーミング。人の流れを工夫した動線や流線型の屋根などにコンセプトが生かされている。

六班は、秋田県が高齢化や人口減少が全国で最も進んでいる点に着目し、子育て世代に住みやすい環境を提供できる施設をコンセプトとする「地育を目指すラフ図書館」。建物をぐるりと回るようにウッドデッキを設けているのが特徴で、マルシェやイベントなどにも活用できるスペースとなっている。

各班のプレゼン後には、松田講師が班ごとの講評を行うとともに次のように総評を述べ、三日間の研修を終えた。「皆さん秋田のことを大変勉強され、



班ごとに演習成果を発表

多世代間交流の促進、地域文化・芸術活動の支援というテーマを丁寧の説明していただきました。また四つのサブテーマ、まずユニバーサルデザインの採用については各班とも車椅子駐車場を設けてあり、ユニバーサルデザインに対して意識的であると確認できました。木材の利用促進については、皆さん秋田杉を積極的に活用していました。地産地消はどこでも大事なことで、私どもがやった都内の学校では姉妹都市の木材利用を提案したケースもありま

した。環境負荷低減の推進についてはいくつかの班が指摘していたとおり、講義でも重要なテーマとして説明させていただきました。最後の長寿命化の推進については、残念ながら具体的な提案が見られませんでした。例えばこういう材料を使うと長持ちするとか、メンテナンスしやすいとか、公共施設では長寿命化をどう工夫しているかというのには必ず問われることになりまして、今後、長寿命化に対しても高い意識を持つていただければと思います。」

## 『女性技術者による建築計画』を受講して

(受講者の感想文より一部抜粋)

●今回の研修に参加した目的の一つは、苦手としていた監理や各種設計の全体の流れを把握することでした。仕事上、今まで女性であることをプラスに捉えたことはあまりありませんでしたが、設計においても女性だからこそ気づける問題点がたくさんあるのだと分かり、今後の大きな励みとなりました。(自治体職員)

●施工管理者の立場として、建築物の計画段階から完成に至るまでのプロセスの再認識を目的として臨みました。今回のように工程を追って説明を受ける機会はなかったため、講師の実務経験のお話も含め、大変分かりやすく勉強になりました。入社して間もない頃にこのような研修に出会えていればと思います。(建設会社社員)

●センターで行われる研修に参加したのは五回目ですが、その中でも満足度の高い研修でした。就職三年目となり自身の理解度や知識が増したことも一助になったとは思いますが、意匠・構造・電気・機械についてそれぞれ講義を行っていただけ、曖昧にしか分かっていなかった部分をきちんと捉え直すことができました。(法人職員)

●年齢の近い他県の女性技術者の方々とグループワークをしたり、交流を持つたことは大きな刺激となりました。一つの課題に取り組む中で、皆さんの考え方や作業の進め方等、参考になることが多くありました。そして、何より女性達で集まり、共に学び活動できたことは大変貴重で有意義な時間でした。(コンサル社員)